

地域を守り

動物と生きていく。

動物と生きていくための活動

塩原で生まれ育った君島さんは、仲間たちと共に「青空プロジェクト THE DAY」という団体を作り、若者の地元離れや後継者不足によって増加してしまった耕作放棄地を整備して、アウトドアアクティビティができるような環境づくりを行っています。

「動物たちは臆病なので、すぐに隠れられる場所がある範囲に縄張りを広げていくんです。自分の畑がきれいでも、隣の畑が草だらけじゃだめ。きれいにしようとしても、高齢化もあって難しい。だから僕たちはボランティアで草刈りを始めました」ときつかけを語る君島さん。野生鳥獣たちは日が暮れるまで隠れ潜み、人々が眠って家の電気が消えるのを見計らい、畑に近づいて来るのだとか。



写真に見える黒土の部分はイノシシが食べ物を探して土を掘り返した跡

バイクで走るスリリングな遊びやトレイルランニングを催して山に人を呼び込み、野生鳥獣たちに「越えてはいけない線」を教えたいと言います。

子どもたちへの教育もとても大切。「シカやサルは敵だから見つけたら駆除しろ」なんて教えたら、子どもたちはそれが正しいことだと思ってしまう。だけどそれでは動物園に行っても楽しめないし、水族館に行っても『魚がおいしそう』で終わっちゃう。生き物には生きる理由があつて存在しているということを伝えたい」と、優しいお父さんの顔をして話してくれました。



1 仕掛けられた餌を食べるハクビシン(令和3年5月13日撮影) 2 草むらに隠れながら歩くイノシシ(令和3年7月1日撮影) 3 日中に人里近くの山中に現れるシカの親子(令和3年6月17日撮影)

知れば知るほど生き物に対して愛着が湧いちゃつて。住み分けを考えたいんです。

青空プロジェクト THE DAY
代表 君島 陽一 さん

ボランティアで地域の耕作放棄地整備を行いながら、林道・古道の管理、獣害対策を通した中山間地域の地域おこし活動をしている。整備した土地を利用して、仲間たちとアウトドアアクティビティを楽しむ。



私たちにもできる

獣害対策

なにが
できるか
なにが
できないか

家の周りに
雑草が生い茂ったり
やぶになっていたりする
ところはないかな？
短く刈って隠れ場所を
なくそう！



ゴミ出しは
指定日・時間を守ろう！
ゴミステーションは
しっかりと囲って
鳥や獣たちが
近づけないようにしよう

収穫してない果物や
木の实が大好物！
食へても怒られないし
最高なんだ！
これがなくなったら
もうここには来ないよ



鳥獣管理士を派遣します！

鳥獣被害対策の専門家である「鳥獣管理士」から、被害軽減に向けて効果的なアドバイスがもらえます。

イノシシ、サル、シカなどの野生鳥獣の習性や地域の被害状況に応じた対策(効果的なわな・防除柵の設置・集落の環境改善)を地域の皆さんで学習しませんか。集落単位での派遣になるので、ぜひ地域で検討してください。

▶ 料金 無料



▶ 申し込み・問い合わせ

☒農林整備課 ☎0287(62)7148

君島さんは「フラットとやってきて、地域のためになるようなことをして帰っていく人」を風の人と定義しています。「地域の人も最初は、よそ者が来てる、と警戒するんです。でも風の人が作業をする姿を見て、お茶菓子やご飯を用意してくれるようになる」と、地域全体に変化があるそうです。

私たちが都会に出るとわくわくするように、都会の人たちは田舎に来ると楽しく感じる。都心部では環境学習が盛んで、修学旅行先の候補にも挙がるそうです。人口減少や過疎化により住民だけでは解決できなくなってきた地域課題を、風の人が楽しみながら一緒に解決してくれるようになれば、それ以上嬉しいことはないのではないでしょうか。

外の人の力を借りること

走れ!!

動物との共生を目指して。



野生動物が人里まで生活エリアを広げてしまった理由は「山に人が入らなくなったから」。生活スタイルの変化や人口減少、過疎化、林業の後継者不足、コロナ禍による外出自粛など多くの原因が挙げられます。

そこで、7月4日に行われたのは、塩原小中学校を拠点とした1周3.5キロメートルの特設コースを4時間走る耐久レースイベント。集まった風の人約100人がコース内を駆け抜けました。

獣害対策で一番大切なのは動物たちを本来住むべき山奥に戻してあげること。その手伝いはそんなに難しいことではなく、走ったり、ハイキングをしたり、そういう楽しいことのでいいのです。

高原大根が参加賞！

